

産業建設常任委員会所管事務調査報告（令和3年度）

1. 調査テーマ

「人口減少をゆるやかにするための産業振興」

2. 経過

開催日	主な調査内容
令和3年8月19日	ミカン農家との意見交換会 ・市民と議会との意見交換会として、三瓶町4Hクラブ（若手のミカン農家が所属する組織）の方々と、ミカン農家を取り巻く現状や今後の展望について意見交換会を行った。
令和3年9月10日	意見交換会の振り返り ・8月19日の意見交換会を振り返り、今後の方針について委員間で協議を行った。
令和3年11月17日	林家との意見交換会 ・自伐林家を中心とした林業に携わるの方々と、林業を取り巻く現状や今後の展望について意見交換会を行った。
令和3年12月9日	意見交換会の振り返り ・11月17日の意見交換会を振り返り、今後の方針について委員間で協議を行った。
令和4年2月17日	米農家との意見交換会 ・特別栽培米を生産する米農家の方々と、米作りの現状や今後の展望について意見交換会を行った。
令和4年2月25日	調査研究の振り返り ・これまでの意見交換会の聞き取り等を振り返り、提言等について正副委員長で協議を行った。
令和4年3月4日	調査研究のまとめ ・1年間の調査研究結果及び提言について報告書の作成を行った。

3. ミカン農家との意見交換会

開催日：令和3年8月19日（木）

相手先：三瓶町4Hクラブ

テーマ：（1）三瓶町4Hクラブの活動状況について

（2）後継者としての将来への展望

（3）販売ルートについて

（4）その他（議会へ聞きたいこと、困っていること等）

調査結果

- ・ミカンの収穫時期にアルバイトを雇用しているが、人材の確保が困難である。アルバイトが集まりやすくなるよう、宿泊施設の整備などを望まれている。
- ・有害鳥獣や飼い主のいない猫による被害が多く、対策に窮している。
- ・農家向けの婚活プロジェクトなど、農家との結婚が魅力的に感じてもらえるような発信や取組が期待されている。
- ・スマート農業や新たな技術を導入するにあたっての補助金等の支援を必要とされている。また、用水の共同利用における問題が障害となっており、行政に仲介役を担ってもらいたいとの意見があった。

今後の課題と対策

- ・まずはアルバイトに来ていただけるような環境を整えることが必要であり、システム導入をはじめ、募集時期や対象品種など、より詳細に協議を重ねていかなければならない。宿泊施設の建設については、空き家等の改修など、方法を検討していく。
- ・有害鳥獣および飼い主のいない猫による被害が甚大である。市としても懸賞金を増額するなどして捕獲率を高めてはいるが、農家の方々においても自衛での対策は必要であり、そのための情報提供を丁寧に行っていかなければならない。
- ・スマート農業の推進のため、補助金制度の強化はもとより、事務手続きの支援や農家間の意見の取りまとめなど、地域に寄り添った支援を行う必要がある。

4. 林家との意見交換会

開催日：令和3年11月17日（水）

相手先：西予市林業研究グループ及び自伐林家

テーマ：（1）西予市における林業の現状と今後の展望

（やりがいや目標、問題点など）

（2）林業の発展に向けて行政へ望むこと

（専業として営むための課題）

調査結果

- ・林道の修繕など、日頃の管理に利用できる補助金等がなく、間伐材出荷に係る補助金も縮小されており、支援が少ないと感じるという声があった。また、災害に強い林道の施工に努めるよう要望があった。
- ・融資や補助金等を受ける際の事務手続きが煩雑であり、団体を通してではなく個人でも申請できるような仕組みを希望されている。
- ・重機の購入費は非常に高額であるため、レンタルやリースができる制度が必要とされている。
- ・担い手育成のため、林業が学べる課程のある高等学校や大学があればいいのでは

ないかとの意見があった。

- ・森林や林道の管理をする際に、その土地の所有者がわからず許可を得ることが困難な場合が多いため、行政で森林の情報を把握するよう要望があった。

- ・三瓶町の林家は八幡浜森林組合へ加入しているところが多く、諸手続きに係る窓口が市外であることにより混乱が生じている。

今後の課題と対策

- ・林業を営むに当たり、森林整備や重機の購入に多額な費用を要するのに対し、補助金や融資等の支援メニューの少なさや木材価格の低下など、経済的な負担が大きいと感じる。

- ・昨今では土地の所有者が近隣に居住していなかったり、所有者の死去後に親族と連絡がとれないなどして、管理ができず荒廃する森林が増えている。行政が主体となって対策を講じる必要がある。

5. 米農家との意見交換会

開催日：令和4年2月17日（木）

相手先：特別栽培米を生産する米農家

- (1) 西予市における米作りの現状と今後の展望（やりがいや目標、問題点など）
- (2) 米農家の発展に向けて行政へ望むこと
- (3) 栽培方法や販売方法について

調査結果

- ・特別栽培米の生産には通常より経費が多くかかるが、特価した補助金がなく、米価も普通の米に比べあまり差がないため、割に合わないと感じている。

- ・ブランディングとして、水のきれいなエリアを産地指定し、応援を通して環境に良いお米作りに消費者や地域の人に参加できるようなイメージ戦略のもと、タイアップなどを行ってはどうかとの意見があった。

- ・スマート農業やAI、ロボット、機械などを導入する農家へ手厚い支援が求められている。

- ・後継者育成に関して、補助金を利用する時の条件が多く大きな壁となっている。

- ・令和4年から、国の方針で水田活用直接支払交付金の見直しが行われ、5年に一度水を溜めない田んぼには交付金が出なくなる。既にビニールハウスを建てるなどして水田にできない土地もあるし、麦や大豆の転作と交付金で何とか利益が出る状態であり、このままでは耕作放棄地も増えるのではないかと危惧されている。

今後の課題と対策

- ・米の消費量は年々減少しており、特別栽培米においても例外ではなく、どうすれば

消費者に興味を持ってもらえるか、どのように販売していくかを考えていかなければならない。

・スマート農業の導入に前向きな農家が多い反面、補助制度の整備は不十分な状況にある。今後、農業に携わりたいと考えている若者を市外から呼び込むためにも、後継者育成や新規就農者支援も含めて、補助制度を見直す必要がある。

6. 所管事務調査の結果を踏まえ、市に対しての提言

(1) ミカン農家における人手不足対策と新技術導入への支援

以下の内容を、市民と議会との意見交換会における意見・要望として市長へ提出した。

①繁忙期にアルバイトの方が来てもらえるようなシステムを作成して、アルバイトの方がいつ、どこでアルバイトを希望されている地区があるのかを見やすいようにしてはどうか。併せて、八幡浜で取り組まれている、アルバイトの方が寝泊まりできる宿泊施設を建設することは可能か。

②スマート農業がだんだんと盛んになってきており、今後の農業において重要になってくると考えている。ただ、購入費や維持費も係るため、それらに関する補助制度を。

③イノシシなどの鳥獣被害が多くて困っている。狩猟者への支援、狩猟資格取得の促進や鳥獣害対策への取り組みなどの支援を。

④地域活性化、少子化対策や農業後継者不足解消として、農家向けの結婚プロジェクトのようなイベントの開催を。

⑤現在、愛媛県果樹試験場が点滴灌水という技術について研究を進めている。三瓶の園地は水源が乏しく、南予用水を利用している状況。新たに点滴灌水用の取水口を作るような仕組みを。

⑥鳥獣駆除の際に誤って猫が罠にかかったり、倉庫等に猫が入り込み子猫を産んでいたり、飼い主のいない猫による被害なども多いため、その対策を。

(2) 森林環境の保護と市内林家の存続のための支援強化

以下の内容を実現すべく調査研究に努めること。

①森林・林道の維持管理に対する補助の見直し及びそれに係る事務手続きの支援を通し、林家の負担軽減を図ること。

②災害や悪天候で頻繁に林道が損傷を受け、林業の妨げになっている。災害に強い林道を施工すること。

③重機の購入には多額な費用がかかるため、レンタル・リースができる仕組みづくりに取り組むこと。

④子ども向け木育教室や学生向けの職業体験、林業への就職希望者向けインターンシップ受け入れなど、人材育成に関する取り組みを推進すること。

⑤森林の所有者に関する情報を収集し、維持管理のために必要な立ち入り許可が円

滑に取得できるよう体制を整えること。

(3) 西予市産の米に対する付加価値向上と水田維持のための取組

以下の内容を実現すべく調査研究に努めること。

- ①特別栽培米の生産に対し、経費の補助となるような施策を講じること。
- ②市内で水のきれいなエリアを産地指定し、環境と体に良いお米作りをアピールできるようなブランディングを検討すること。
- ③スマート農業を導入する農家に対し、市独自の支援策を施すこと。
- ④後継者育成に係る補助金について、申請のハードルが下がるように利用条件を緩和すること。
- ⑤国の方針で水田活用直接支払交付金の見直しが行われ、令和4年からの5年間で一度も水を張らなかった水田は対象外となる。交付金は米農家の重要な収入でもあるため、市から国へ取りやめるよう要望を行うこと。

7. まとめ

当委員会では、3回の意見交換会を通し、調査テーマについて研究を行った。いずれの回においても、共通して「高齢化と後継者不足の問題」と「今後のスマート農業へ期待する意見」が挙げられ、後継者問題を当事者の言葉で語っていただくことでその逼迫した状況を知るとともに、今後の産業の発展について希望に満ちたお話を聞くことができた。

西予市はもちろんのこと、全国的に少子高齢化が進む中、後継者不足は必然の課題であり、今後の持続可能な産業を進めていくためには、スマート農業の推進はもちろんのこと、現在の国や県からの支援だけでなく、西予市独自の施策が必要であると感じる。西予市独自の施策を行うことで魅力ある産業として位置づけられ、市外からも西予市の産業に関わってみたいと思ってもらえるようになるために、現在従事されている方々が心からやりがいや魅力を感じるような産業になることを期待する。